

ロボット手術

勝間田 敬 弘



心臓や血管の外科治療を専門とする医師として17年の歳月を経た。思えば、新卒研修医として外科の教室の門を叩き、数年間は切る、縫う、縛る、引く、押す、緩める、締める、といったこの職種特有の身体活動の初期修練を行いつつ、それと平行して解剖と生理の連鎖の妙を毎日目の当たりにし、考え、悩んで今日に至っているといつてよい。

1990年代後半から、国内外の心臓血管外科の学会で、“ロボット手術、Robotic surgery”なる文言が出現し、最近では外科全般にわたりこのNew modeが取沙汰されている。私も、1998年に欧州のある施設でロボットに触らせてもらったことがある。西洋の全能の神の名を採ったその機械は、外見上あたかも外科医にはもはや解剖学的“腕”は不必要といわんばかりの、巨大なProfileの金属性の手-腕そのものであった。その当時の私の率直な感想は、ロボットとは名ばかりであり、微小な動作調節、円滑な3次元運動を外科医の手に代わって執り行うにはあまりにもシステムとして未熟であるということであったと思う。さらに不満を覚えたのは、我々外科医は4次元運動を手術中に展開しているという、機械工学にはおそらく想定できていない環境をこれらの機械は一切忘れて系統発生してしまっている節があったことである。4次元目とは、空間=肉眼解剖に加えた、手術操作の対象組織のtexture = 感触、触感から伝わる“質”的評価、あるいは温度、拍動などから察知される操作野の裏に存在する他の臓器や組織の“存在の予感”とでも言おうか、いずれも、我々外科医が日常的に指先で“感じて”いた種々の感覚から予測される要素である。無感触な、樹脂製のハンドルを持ちながら、触覚を完全に失い、視覚、聴覚のみに頼る“手”術の不合理を身をもって実感した感があった。

私が、ロボット手術と聞いて、すかさず想像したのは、外科医の手の末端での操作が新しい概念のapplicatorによって置換された状況である。電動義手がメスを持って切ったり、針糸を持って縫ったりすることではなく、これら最末端の手術操作自体が“メスで切る”や“針糸で縫う”というような古典的な概念から脱却して、まったくのnew modeで同等の効果を得るという革新的な状況であった。現状はこれとは程遠く、例えるならば、イージス艦に乗りながら火縄銃で撃っている状況であろう。

最近、国内の理工系研究施設からさらに一段と洗練されたロボットが発表されているというニュースを見た。Low profileになった、一段と複雑で微細な操作が可能となった、云々であったが、いずれも手術野の“4次元目”を制覇するに足るものではなかった。なぜなら、いまだにこれらの工学の産物は運動機能の再現を主目的として開発されており、感覚機能の付帯という課題に一切無縁で生み出されているからである。最近、Telesurgeryと称して、ニューヨークの病院に居る外科医が、普段着でロボットアームの操作台に向かい、衛星回線を通じてパリの病院の手術室で全身麻酔をかけられて横たわる患者の手術を行う、などという試みも行われている。これも、ならば、術者がパリに飛べばよいと考える私には、単なる外科医の怠慢とでしか映らないのだが。経費も大差はあるまい。

心臓手術のひとつに冠動脈バイパス手術というのがある。心臓を養う直径1~2mmの冠動脈が狭くなった狭心症の患者さんに、新たな血の道筋=バイパスを作成する手術である。数年前までは、必ず針糸でバイパスと冠動脈を手で縫って接続していたのだが、最近、自動吻合器なる、ロボットの1パーツとなりうる装置が現場で使えるようになった。患者さんの足の皮膚の静脈を1本採取して、これを器械に装填し、後は繋ぎたい場所に狙いを定めて発射！これでバイパスの接続終了である。大変重宝しているのだが、この類のロボットの手先に位置しうる最末端のapplicatorが、古典的な外科手技から脱却して誕生することが、今後のロボット手術の盛衰を決するものと思われる。基本概念を覆すような単純で普遍的使用に耐えるdeviceの登場が待たれる。

(かつまた・たかひろ 胸部外科学教授)

「紙なし情報システム」の次へ

森 禎 章

図書館は参考図書や学術雑誌を収集・蓄積して利用者に提供し、利用者の要求に答えて求める資料の探求を援助する仕事を行ってきた。しかし、1980年代中期に翻訳出版された電子図書館構想の先駆けランカスターの『紙なし情報システム』で電子図書館構想が喧伝されて以来、その役割が変容しつつある。それでは、ランカスターの「ペーパーレス」の予言は当たったのだろうか？学術雑誌に関して言えば答えは「イエス」である。ご承知のように、我々は英文の文献を検索する時ほとんどのケースで『Pub Med』を使うが、『Pub Med』で検索された文献は最近では大半がパブリッシャー・サイトへとリンクしており、そうでない場合でも『Science Direct』などを介して直接フルテキストを閲覧できるし、PDFファイルのダウンロードも可能である。このとき、我々の目の前にあるのはコンピュータのスクリーンで、コンピュータに接続された一本のケーブルが我々と世界中の膨大なデータと接続しており、すでに我々の机の上に仮想図書館が存在する。

利用者としての我々が直面している問題は何か？それは、収集した情報（ファイル）をいつでも使える様に管理することであろう。『iPapers』(http://homepage.mac.com/toshihiro_aoyama/iPapers/index.html.ja)はToshihiro Aoyama氏が作られたMacOS X用のアプリケーションである。Pub Med-IDをベースにしてPDFファイルを管理するだけでなく、タイトル・アブストラクト等にある語によるサーチ機能、Pub Medサーチを介して論文誌サイトからPDFファイルを直接ダウンロードする機能がある。さらに、「取ってきた論文にPub Med-IDでファイル名を付ける操作」も自動化されている。情報化が進む学術活動の中で、紙だけの媒体資料を取り扱っていた研究者としての訓練との差は大きい。一般的な情報の集団から特定の情報を抽出して判断する作業は、それをデータベース化することによって果たされるのである。

それでは、利用者側から見たこれらの図書館の役割は一体何なのだろうか？国立国会図書館の『電子図書館プロジェクト』(<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/elib-project.html>)には、電子図書館の目標が以下のように記載されている。

電子図書館の目標もまた一つではありません。しかし、今後の情報環境下において果たす役割を考えると、以下があります。

資料のデジタル化 図書館の蓄積した豊富な資料と情報により、電子的に利用できる「蔵書」を体系的に構築する。

電子情報のアーカイブ 文化的資産として電子情報、特に電子的にしか流通しないボーンデジタル(born digital)情報の収集・保存をはかる。

媒体を問わないアクセス 電子、紙など媒体を問わず求める情報へ、迅速に、容易に到達できる機能を構築する。

所在を問わないナビゲーション 「壁のない図書館」として、一つの図書館が所蔵する情報だけでなく、インターネット上にある情報に所在を問わず到達できる機能を構築する。そのための連携・協力をはかる。

もともとの電子図書館コンセプトはデジタル化された情報を記憶装置に収めた箱であるサーバーと端末機器からなる系で、「いつでも、どこからでも、だれにもアクセスできる仮想図書館」を構築することを目的をしていた。しかし、すでに電子図書館は世界中に数多く存在し、その情報はあまりにも多い。この様な状況で我々が望むのは、自分のコンピュータを数多くのデジタルアーカイブに効率良く接続できるポータルサイトとしての機能であると同時に、自分のコンピュータに個人用のデジタルアーカイブを構築するためのモデムシステムの呈示である。また、医学研究においては形態や機能から分子まで多角的な情報が扱われているため、図書館がこれらに対応した新たなサービスを開拓して行くことも重要であろう。

(もり・よしあき 第二生理学講師)

「藪医者」の本義 - - 21世紀の医療環境 (16) - -

牧 彰



竹林を吹き抜ける風も爽やかな「リハビリ庭園（赤穂市民病院）」

「医師が嫌がることはあえてしない方がよいのでは...」

社内設計会議での出来事です。病んだ患者の心身を癒して生きる勇気を培うために、病院内に緑爽やかな「竹の庭」を提案していた時、直属上司から浴びせられたシニカルな苦言でした。

「竹から竹藪、竹藪から藪医者へ」の連想は誰にでも容易です。現代日本の病院では、「藪医者」は最も忌避すべき呼称なのでしょう。しかし、竹ほど強靱な生命力を持ち、傷心の患者を癒せる植物が他にあるのでしょうか。20世紀後半以降、竹の自生しない欧米でさえ、庭には竹が好まれているのです。

竹は東アジア・東南アジア特産の常緑植物です。その生態は樹木でも草木でもない摩訶不思議な生物ですが、わが国では松竹梅として、昔から松・梅と並ぶ極めて有用な植物なのです。その新芽（筍）は美味で、今では日本の春を告げる貴重な食材の一つといえるでしょう。

竹の生育は他の如何なる生物よりも速く、真竹が一日120cm以上伸びた記録があります。その秘密は茎の節にあり、樹木では茎先端の成長点が細胞分裂を繰り返して生育しますが、竹は茎先端だけでなく節毎にある成長帯が細胞分裂します。生長量は各節間の総計となり、筍は凄いい勢いで伸びるのです。普通一本の竹には約60個の節があり、成長速度は単純に計算しても樹木の60倍です。孟宗竹の筍は、3～4週間で親竹の高さ（約20m）になります。

筍の外皮を剥がすと節の成長帯に紫外線が当たり、細胞分裂が抑えられます。生育に連れて外皮が落ちると成長が鈍ります。従って、節間の長い良い竹を育てるには、竹藪の周囲を椿などの常緑樹で囲うのです。

また、竹は樹木とは季節が半年ずれているので、秋から冬にかけての寂しげな木立の中でも、竹は目にも鮮やかに青々と映るのです。俳句の季語では、新緑の9月頃が「竹の春」、筍の出る4月頃が「竹の秋」です。幹の美しい樹木が少ない中で、竹は葉も幹も鮮やかで美しい極めて理想的な園芸植物なのです。

さて、日本の医療の明日を担い、知的好奇心旺盛な大阪医大医療従事者諸兄諸姉に、竹博士・室井紳先生の『藪医者の本義』をお伝えしましょう。

「藪医者」の存在は非常に古い。太古の竹藪といえば淡竹で、争いが起こると淡竹を切って先端を尖らせ、敵を殺傷するのに用いた。竹槍は武器の始まりであった。竹槍に適する淡竹は、節が低くて強く真っ直ぐなのがしごきやすくよい。質のよい武器を得るために、竹藪の周囲に常緑の椿を植え、高さ3m内外で芯止めし、竹を保護する椿は「藪椿」と呼ばれた。

社会機構が進むと医療体制の整備が急務となる。戦さには怪我人も多く、軍隊に医者を具する必要がある、「藪医者」の尊称を与えて厚遇した。いわゆる軍医の誕生である。

藤井二男『風俗文選通釈』によれば、「藪医者」の最上級は兵庫県養父の「藪医者」であった。「養父医者」は死人をも蘇生できたとある。また、角川書店『言葉の豆知識』によれば、京の「藪医者」が名医として知られていたが、その弟子たちは自分で治療もできないくせに、何かと大先生の尊称・「藪」を持ち出しては、「藪医者」の名を乱用したので町衆の信頼を失い、以来最低の医者「藪医者」と呼んだとある。「藪医者」大先生も不徳な弟子を持ったばかりに、後生名を穢したのである。

側光を嫌う竹は、病院の狭い中庭などに最適です。地下茎が浅くこの竹は、屋上庭園に即しています。微風に揺れる笹の葉は、まさに風の造形であり、動くアクセサリーです。「藪」という言葉などに惑わされず、医療の現場でこの奇跡の植物をもっと活用できないのでしょうか。弱者（患者）と健常者（医療従事者）が共存する社会の縮図・病院にこそ、竹は最も相応しい植物ではないでしょうか。患者のリハビリテーションのために、本学構内にも「竹の庭」が望まれるのではないのでしょうか。

（まき・あきら 建築家 元日建設計社員 本学総合研究棟・図書館棟設計担当）

マザー・テレサに関する本を読んで

佐野 茜

高校時代、60歳にして看護師の道を志した私の尊敬する英語の男性教師がいた。その恩師は、教師を定年退職後、現在看護師を目指し在学中である。その恩師はいつも授業中、マザー・テレサについて語っており、とても尊敬しておられた。このことがきっかけとなり、マザー・テレサに関する本を読んだので、ここで紹介しようと思う。

マザー・テレサ、本名アグネス・ゴンジャ・ボジャジュ、1910年マケドニア生まれ、英語を学ぶために18歳でアイルランドへ渡り、ロレット教会に入会する。その後修道会が経営する高校の教師としてインド、カルカッタへ渡る。学校長も勤め17年間の教員生活を送る。しかし、修道院の外には路上にあふれる難民やまるでゴミのように打ち捨てられて転がっている人々...。インドの悲惨な現状、イエズス会のインドでの活動を知り心打たれ、インドで働くことを望んだという。マザーは「私には温かなベッドが与えられています。でも路上で何も掛けずに寝ている人々もベッドを必要としているのです。彼らに与えられないのはとてもつらいことです。」と葛藤の末、修道院を出て、貧しい人々への奉仕を志した。

マザー・テレサのテレサという名は、「小さき花のテレジア」の、テレジア・マルタンにちなんだもので、そのスペイン語読みがテレサであるという。テレジアは24歳で病死したフランスの修道女であり、貧しい人たちのために祈り、世界中のカトリック信者に感動と愛の灯を与えた聖女であるという。このテレジアの修道名を選んだのは、マザーの精神、思いが込められているに違いない。

マザーには欠かせない6つのキーワードがある。それは、マザーそのものと言って良いだろう。それは、「沈黙」「祈り」「信仰」「愛」「奉仕」「平和」である。これは次のような詩でマザーの名刺として、求められれば渡していたそうである。

沈黙の果実は祈りである
祈りの果実は信仰である
信仰の果実は愛である
愛の果実は奉仕である
奉仕の果実は平和である
マザー・テレサ

マザーは毎日祈ることを訴えている。忙しい中でもどんな中でも祈るということが大切だと。私たちは、日々の中で祈る時間というものがあるだろうか。よく何かの問題が起きた時、「神様どうか、お願いします。」というのはあるだろう。それは、自分・家族・友人などのためであったりする。だが、マザーが言っているのは、誰かのために心静かに毎日祈る。忙しさの中でゆとりもなく暮らす現代人にとって祈りは、そこから開放される、心が穏やかに生まれ変わる瞬間になるのではないだろうか。そして自分をも見つめることができる。このような騒がしい現代だからこそ、祈りが必要なのではないだろうか。マザーはそう訴えているのだと思う。

日本は、物質的に裕福であるが、マザーが言うように精神的なものはどうなのだろう。多くの孤独や愛に飢えている人々が大勢いると思う。子供からお年寄りまで愛に飢えている人々は身近にもいる。そして都市部の駅周辺や、公園にはそこを住まいとするホームレスの人々が大勢いる。胸がいたい話だがそこで凍死してしまう人もいるという。私もマザーが言うように誰からも必要とされていないと感じることこそ最大の悲しみであり、貧困だと思う。普段ほとんどの人がホームレスの人を、見て見ぬふりをして通り過ぎていると思う。私自身横を通り過ぎる度に自分と葛藤し、結局同じことをしている。だがマザーは違う。どんな人にも進んで声をかけ、微笑みかける。そして身体の状態がよくない人は施設へ運び看病する。彼らはそこで初めてあたたかい愛をもらおうという。マザーはただ愛する。あなたはこの世に祝福されて生まれてきた、かけがいのない人なのだと愛を伝える。私はそのマザーやシスターの無償の愛に、強さや温かさを感じる。

「愛は行動で表すものです。」とマザーは言う。愛によって奉仕は生まれ、それは行動にしなければ

ば意味がない。奉仕は行動なのである。マザーの奉仕は世界中に渡っている。そして常に言っていた言葉「ザ・プアレスト・オブ・ザ・プアー」貧しい人の中でもっとも貧しい人のために生涯奉仕を続けた。愛を与え続けた。祈り続けた。大切なことは、どれだけ愛が込められているかということであると。マザーの愛は限りない愛である。この愛は、今なお多くのシスターに受け継がれている。

私は少しばかりであるがマザーの精神に触れ、生涯を人のために奉仕し続けたマザー・テレサを尊敬する恩師が伝えたかったことがようやく理解できたように思う。この精神に触れ、思ったこと、感じたことを今後の人生に役立てていきたいと思う。

(さの・あかね 第二看護学科 2年)

新システムによる Medline 検索開始 (2005年 1月から)

2005年 1月以降学内 Medline 検索システムが、現行の ERL 学内サーバーから Ovid 学外ネットワークサーバーに変更になります。学内から IP 認証接続方式で Ovid 社のサーバーに接続することになります。図書館内の 5 台の検索端末も同様です。

接続直後の画面は利用可能なデータベース一覧 (図 1) となっており、どれか一つのデータベースを選択して検索が始まる。複数のデータベースを検索したいときには、予め画面内で select more than one database to search とある見出しをクリックすると複数のデータベースにチェックを入れられる画面 (図 2) になります。ここで複数のデータベースを選択し、画面左にある click to begin search とあるボタンをクリックすると検索が始まる。



図 1 . OVID Medline IP接続直後の画面



図 2 . 検索対象データベース選択画面

検索は Enter Keyword or phrase: とある枠に語句を入力し、Perform Search ボタンをクリック (図 3)。検索時に予め論文の発行年や論文タイプ等で限定もかけられます。検索結果表示画面 (図 4) では、検索結果のソートや出力情報の変更や検索結果の保存やダウンロード等が出来ます。



図 3 . 検索初期画面



図 4 . 検索結果表示画面

検索画面内にはツールボタン（図5）があり、雑誌名や著者名で検索する場合は予めクリックし検索対象を特定できます。



図5．ツールボタン

検索の終了は Logoff とあるアイコンや、検索結果表示画面右上に表示される Logoff とある文字をクリックすることにより終了。Logoff が完了すると ID・パスワード入力による接続画面となりますが、接続は完全に終了していません。簡易なガイドやマニュアル類も今後用意いたしますので、新 Medline 検索システムのご利用をお願いいたします。

医中誌は Web 版検索のみに変更（2005年1月から）

図書館内の5台の検索端末で使用している医中誌 CD-ROM システムが、2005年度末に廃止となることが医中誌刊行会より通知されました。学内サーバーのリース期限とも絡み2005年1月より図書館内の5台の検索端末も、CD-ROM 検索システムから医中誌 Web 検索システムに変更することとなりました。既に学内ネットワーク上でサービスしている医中誌 Web ですが、あらためてここでその概要を紹介いたします。

収録範囲は1983年以降医学中央雑誌刊行会作成分約529万件の文献。更新頻度は月2回、原文が発行されてから収録されるまでのタイムラグは4～6カ月。同時ログイン数は大阪医科大学の場合"最大8"、学内から同時に8端末がアクセスできます。対応 Web ブラウザは日本語 Netscape Communicator 4.06 以上、または Macintosh 版を除く日本語 Microsoft Internet Explorer 4.01 以上。なお、Netscape Communicator 6.0は対応しません。

従来の CD-ROM 版は、予め作成された索引を利用した検索を基本としているのに対し、WEB 版は、全文検索（文字列検索）を基本としています。従って原則として、文献中に存在する文字列はすべてヒットします。その反面、検索結果を絞込まないとノイズが多くなります。また CD-ROM 版では出来なかった通年検索ができます。



図1．ログイン後の画面



図2．BASICモード検索

医中誌 Web ページの enter 画面から入ると、検索モード選択画面（図1）です。BASIC モードか ADVANCED モードを選択します。BASIC モードを選択すると検索語入力画面（図2）となり、ここでは著者名・掲載誌名・著者所属機関での検索指定も出来ます。データベース検索対象年代も変更をクリックして指定できます。その他論文のタイプや掲載誌発行年等により絞り込みも掛けられます。ADVANCED モードではさらに詳しく入力する検索語の種類を指定できます。

検索結果画面の内容は従来の CD-ROM 版と大差はありませんが、メール送信等の機能が加わり



図3 . ADVANCEDモード検索画面



図4 . ログアウト画面

検索結果からの再検索もスムーズに行えます。検索終了時には必ず画面内にある終了ボタンをクリックしてください。その後に現れるログアウト画面（図4）で、必ず利用終了ボタンをクリックして終了です。

他大学図書館訪問記 （20） 愛媛大学附属図書館医学部分館の巻



1 . 医学部分館全景

愛媛大学附属図書館医学部分館は愛媛大学医学部内にあり、愛媛県松山市の南隣東温市（旧称愛媛県温泉郡重信町）に位置し、学内では重信地区とも称されます。JR松山駅からは南東方向にあたり、伊予鉄道を利用すると松山市駅経由で40分ほどの所に、病院棟群（東側）と大学棟群（西側）とが並んであります。医学部は医学科と看護学科の2学科からなり、2004年5月1日現在で教職員798名、医学科学生567名、看護学科学生244名、大学院生46名です。医学部分館の前身は1973年医学部の設置に伴い置かれた医学部図書館です。1978年3月医学部図書館

新営工事が竣工し、同年10月に附属図書館医学部分館として組織替えされました。

図書館棟は、大学棟群キャンパスの西側に位置し2階建てで図書館面積は1,203m²あります。図書館棟1階北向きに入口があり、入ってすぐ右手には自由閲覧室があります。1階部分はそのほか、図書・雑誌整理のための資料情報係事務室と、2階から連絡する書庫になっています。利用者の方が図書館を利用する際はまずは2階へ上がり入館ゲートを通ります。BDSを備えた退館ゲートと対になっています。入口右手にWebを利用できるコンピューターコーナーがあり、複写機室と続きます。入口にメインカウンターがあり、その奥が閲覧業務や情報検索・文献複写等を担当する情報サービス係事務室となっています。入り口左手すぐにはAV資料の棚があります。続いて参考図書の書架や新着雑誌の書架があり、閲覧室もこの階にあります。部屋の奥には看護学科資料コーナーが独立して設けられています。参考図書の書架の奥、建物の西側には3層からなる書庫があります。1970年から1989年の欧文雑誌は書庫1階に、書庫中2階には洋図書と和文雑誌が、書庫2階（閲覧室フロア）には1990年以降の欧文雑誌があります。1969年以前の欧文雑誌は図書館本館の書庫に移動し保存されています。

図書館の開館時間は、平日午前9時から午後9時まで、土曜日は午前9時から午後5時までです。日曜・祝日・年末年始（12月28日～1月4日）は休館となっていますが、院生以上の研究者と教職員は講座ごとに予め登録することで、24時間図書館を利用できるようになっています。6回生の自

習利用は、平成15年図書館東側に竣工した総合学習棟が受け皿となっています。利用対象者は以前より制限を設けておられず、県内の医療従事者等に対し学術・研究目的として資料の閲覧・複写・貸出のサービスが積極的に行われています。

分館図書蔵書数は和書44,676冊、洋書54,839冊で、和雑誌624種、洋雑誌420種を受入れられています。オンラインデータベースでは医学中央雑誌、CINAHLを契約。電子ジャーナルは Science Direct、InterScience、Kluwer Online、LINK、Blackwell Synergy の5大出版社等を契約しており、CD-ROM 資料は JCR 等です。文献情報検索と複写申込・電子ジャーナル利用の説明会を講座単位で行われ、電子ジャーナルのリンク集の使い方や、OPAC の利用方法、PubMed での書誌事項の確認と複写依頼の申込方法についてガイダンスされています。



2. カウンター

図書館の当面する課題としては保管資料の増加に伴う書庫の不足が挙げられ、上記のように一部本館への移動や重複雑誌の廃棄も行われています。今後は積極的に電子ジャーナルを導入し、製本や書庫の使用を抑える方向だそうです。また外国雑誌の選定も3年に一度は行われ、選定基準も文書化されています。

医学部分館の URL は <http://www.lib.ehime-ac.jp/IGAKU/index.html> です。このホームページからは、図書館サービスの多くのことが発信されており、学内向け専用サービスには、コンテンツサービス、文献複写・貸借、研究用図書購入申込、図書選書サポートシステム等をサービスされています。

(宮本)

書評

キツパリ！；たった5分間で自分を変える方法

上大岡 トメ 著 幻冬舎 2004年
早崎 華



世の中、常に「自分を高める努力」を実践できる人間とできない人間がいます。私はどちらかといえば後者の方、基本的に横着者です。「今のままではいけない！何とか自分を変えねば！」と書いていても実行に移せないのが私です。

私がこの本を読んでみようと思ったきっかけを正直に申しますと、私は『即効』とか『すぐに』というキャッチコピーにやたらと弱く、たったの5分で自分改革ができるなんて、表紙も可愛いらしいイラストでしかも読み

やすそう、といった安易な理由です。

いざ読み始めてみると、イラストも多く、あっという間に読めてしまいました。

著者は「はじめに」でこの本を以下のように紹介しています。

「大きい変化は小さい変化から」大きな変化は結果が出れば劇的だけど、いきなりチャレンジするにはハードルがものすごく高く感じる。もし最初はまたげるくらいのハードルだったら、勇気も決断もそんなにいらぬ。そしてだんだんハードルを上げていったらどうだろう？まずはいつも自分が普通に、自然にやっていることを変えてみよう。昨日しなかったことを、今日してみる。それも5分くらいでできること。5分だったらどんなに忙しくてもできそうな気がするし、お金もたくさんかからなければ、続けやすいかも。とにかく思いつくことをはしから挑戦！「これなら自分にもできそう」と思えるカンタンなものばかり。その中から自分がやってみて、効果があったもの、

また一度で終わっちゃったけど続けてみたいな、と思うものを絞りに絞って60個厳選しました！「知ってる」ではなく実際にやってみてください。ほんのささいなことでも自分でやろう！と決めたことができると、達成感から自信になります。小さな自信はやがてちりも積もって勇気になる、そうしたらどんどん次にチャレンジをしたくなって、やがて大きな変化を生む。そう信じています。

簡単に言うと「人間大きく変わるのは難しいので、小さなことからコツコツ変えていきましょう」という概念から成り立っている本です。

この「小さなこと」60個単位ごとにまとめられており、共感できる項目もあれば共感できない項目もありましたが、60個すべてが「行動」だということ。ちょっとした、けれど「行動」。60個の「行動」は本当に当たり前の事ばかりなのですが、実際「行動」に移すのは、物事を少し違う角度から眺めてみないと気がつかないかもしれません。この本はそんな日常の実行できないというより、実行していない沢山の自分を変えるための「行動」を気づかせる本です。

冒頭にも書きましたが、読むだけならあつという間に読めてしまう本です。この本は読むだけではダメ、実際に「行動」に移すきっかけにする本です。もちろん日頃「自分を高める努力」を実践できる人間には不必要な本なのでしょう。

さて、私はこの本を読んで変わったのか？という事ですが、実際にいくつかの「行動」を実行してみました。周囲から「変わったね」と言われた事はありません。でも私の中で何かがポジティブに動き始めたのは確かです。

(はやさき・はな 第二解剖学助手)

図書館無人開館の利用状況について

図書館では、平成15年9月1日より時間外開館時間を延長いたしました。今回は、開館時間延長から1年が経過しましたので、平成15年9月から平成16年9月までの無人開館時間帯の図書館利用状況について報告させていただきます。

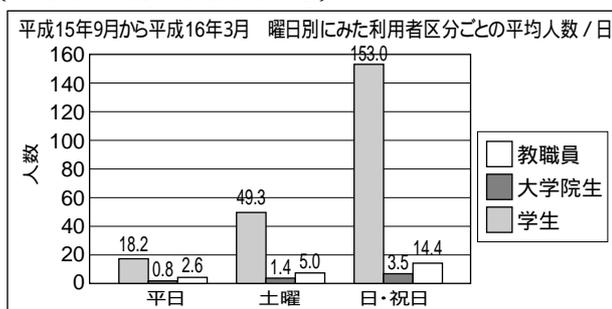
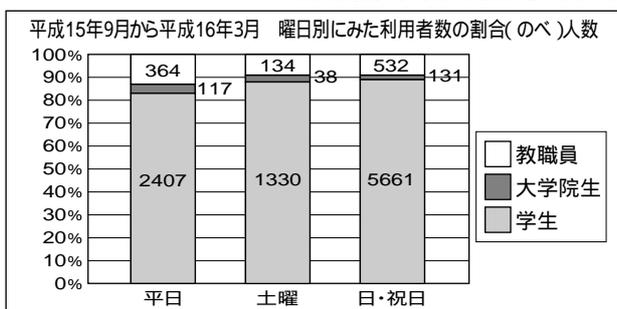
無人開館時間は、月曜～金曜（平日）が21時10分～23時、土曜日が17時10分～21時、日・祝日および本学創立記念日が9時～21時までとなっています。

曜日別にみた利用者数（のべ人数）および平均人数/日は、学生の割合が圧倒的に多くなっています。平成15年度と平成16年度では、平成16年度の方が1ヵ月分少ない数字ですので、単純には比較できませんが、教職員の利用が増えています。

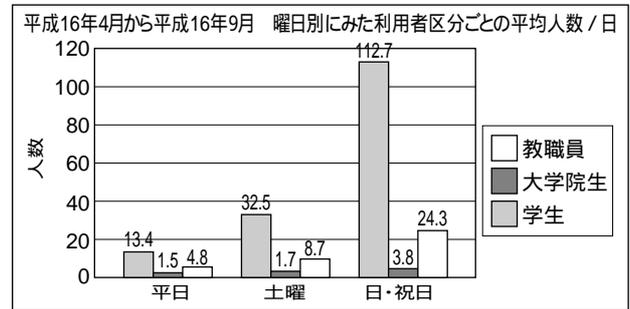
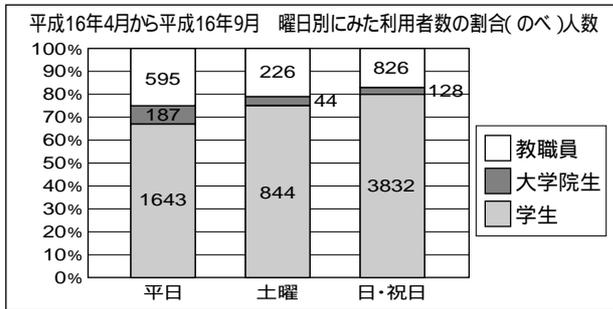
これまで、特に大きなトラブルはありませんが、入館時にIDカードを通さずに入館したため退館できなかったケースがありました。無人開館時間帯の図書館利用時には必ず各自でIDカードをカードリーダーに通して入退館されるようお願いいたします。

なお、平成15年9月から平成16年9月までの利用状況は以下の通りです。

無人開館時間帯における利用状況（平成15年9月～平成16年9月）



平成15年9月～平成16年3月までの曜日ごとの日数：平日（21:10～23:00）140日 土曜（17:10～21:00）27日 日・祝日（9:00～21:00）37日



平成16年4月～平成16年9月までの曜日ごとの日数：平日(21:10～23:00)123日 土曜(17:10～21:00)26日 日・祝日(9:00～21:00)34日

本学教職員著作寄贈

武内 敦郎(名誉教授)

ふたつの心臓 / 武内 敦郎著 メディカ出版 1997

ふたつの心臓 続 / 武内 敦郎著 メディカ出版 2003

大阪医科大学ラグビー部

大阪医科大学仁泉ラガー七十五年史 / 仁泉ラガー編 仁泉ラガー 2004

藤本 守(名誉教授)

感染・免疫の用語集 / 藤本 守著 2004

杉本 修(名誉教授)

子宮内膜症と子宮腺筋症 / 杉本 修著 知人社 2004

榎林 勇(放射線医学)

画像鑑別診断クイックリファレンス 2 / 榎林 勇他編 金芳堂 2004

後山 尚久(産婦人科)

もっと知りたい女性の漢方 / 後山 尚久著 知人社 2004

福岡 栄介(病院薬剤部)

薬理学 改訂4版 / 福岡 栄介著 金芳堂 2004



1. 2005年度新規購入予定タイトル

- 1) Developmental cell (online)
- 2) International journal of radiation oncology *biology* physics (online)
- 3) Nature reviews; microbiology (online)
- 4) Stem cell (online)
- 5) Thyroid

6) ターミナルケア(看護専門学校)

2. 新規受入雑誌(看護専門学校)

看護教員と実習指導者 1(2004) +

3. LWW社の100タイトルがonlineで利用可能になります。

2005年1月からLWW社発行の100タイトルがonlineで利用可能になりました。

このうち本学で購入している33タイトルの冊子体雑誌がonlineで利用可能となります。

図書館のhome pageよりaccessしてください。

4. Elsevier社発行の15タイトルを電子ジャーナルオンリーに変更

図書館で利用の少ない15タイトルについて、経費節減のため、冊子体を中止し電子ジャーナルオンリーに切り替えました。

Cancer treatment review 他 15タイトル

5. 新図書館システムの活用を!

前回のOMUNIBUSでもお知らせしていますように(OMUNIBUS No.26 p.6)平成16年4月より図書館システムが新しくなっています。その特徴のひとつに、Web上から文献複写申し込みや、自分の借出し状況の確認などができるようになっていきます。それぞれ、画面をよびだし、

必要事項を入力するだけです。この機能をどうぞご活用ください。(複写申込については、利用説明書をカウンターに用意しています)



図書館業務日誌

- 平成16年 5月
- 7日(金) 近畿地区医学図書館協議会例会 (於、近畿大学医学部)
 - 12日(水) 二年生文献検索実習(於、図書館)
 - 14日(金) 医図協企画・調査委員会(於、本学図書館)
 - 27日(木) - 28日(金) 日本医学図書館協会総会(於、学術総合センター)
- 6月
- 10日(木) 医図協総務会(於、慈恵医科大学)
 - 16日(水) 二年生文献検索実習(於、図書館)
 - 17日(木) 図書館運営委員会(於、図書館会議室)
 - 18日(金) 医図協理事会(於、慈恵医科大学)
- 7月
- 8日(木) Elsevier社ライブラリーコネクトセミナーに館員参加(於、梅田スカイビル)
 - 27日(火) 私情協第一回全体会議に館員参加(於、市ヶ谷私学会館)
 - 28日(水) 医学情報処理センター利用者会議(於、第二会議室)
- 8月
- 4日(水) 医学情報処理センター運営委員会(於、第三会議室)
 - 5日(木) Infocom電子図書館セミナーに館員参加(於、キャンパスプラザ京都)
 - 6日(金) 紀伊国屋書店ジャーナルセミナーに館員参加(於、阪急ターミナルビル)
 - 26日(木) 大学院生オリエンテーションで図書館利用説明(於、第一講義室)
- 9月
- 1日(水) 電子ジャーナルコンソーシアム説明会に館員参加(於、近畿大学)
 - 9日(木) 医図協「国立ライフサイエンスセンター検討委員会」(於、慈恵医科大学)
 - 22日(水) 図書館運営委員会(於、図書館会議室)
- 10月
- 8日(金) 近畿地区医学図書館協議会シンポジウムに館員参加(於、京都市国際交流会館)
 - 21日(木) 図書館運営委員会(於、図書館会議室)
 - 26日(火) 外部評価委員が図書館視察(三名)
 - 28日(木) 医図協分担購入委員会(於、慈恵医科大学)
 - 29日(金) - 30日(土) LVZバージョンアップ作業

編集後記

今回のトップ記事は、勝間田敬弘教授にお願いしました。また、エッセイは、森禎章先生に執筆して頂きました。21世紀の医療環境のシリーズは、16回目になります。

今号は、来年1月より Medline、医中誌等の利用が新システムに変更になりますので、その関連記事を掲載しました。その他、多くの方に執筆して頂き、有難うございました。表紙のカットは、北村達郎氏に描いて頂きました。読者の方の投稿を歓迎いたします。(茂幾)

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書館室報」

No.27号 2004年12月15日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (072) 683-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社